

井堰と用水路

井堰(仕掛)は、川の水をせき止め、田に水を引くために作られた所ですが、河内地区に23箇所あります。中には河内地区から八幡地区の田に水を引いているものや、河内発電所用のものも1箇所あります。各井堰には田に水を流すための用水路がありますが、その用水路を合計すると約24.2kmとなります。したがって八幡川の延長(河川法に基づく二級河川区間)の20.1kmよりも長くなります。農家では毎年黄金色の稲穂を育てるために、この井堰と用水路を大切に管理しています。



白川の手



門前取水口



用水路の中には、写真のように、川が用水路の上を流れている所もあります。これは用水路の水量が雨などで急に増し、氾濫を防ぐためにこのような形態が取られたものと思われます。

用水路と川(川が上部で、用水路が下部)

河内のくらし

1915年(大正4年)に河内小学校の櫻田校長が作詞された「河内村郷土唱歌」の中に次のような詩があります。

流れも清き八幡川 その水上に位せる 山ふところの里なれど
地の利 人の和 備われり
中でも農耕進みたり 植林業の年月に 進みて今は四方山の
景色もとみに秀れたり

この詩にあるように、「都志見往来諸勝図」に見える岩肌の山々が、この頃には地域の人々の努力で緑の山になっていました。

八幡川の活用

八幡川
歴史探訪
ガイドブック

魚切ダム 1981年(昭和56年)3月に完成した洪水調節・上水道用水・かんがい・発電を目的に造られた多目的ダムです。堤防の高さ:79.8m・堤防の長さ:255m・総貯水量:8,460,000㎥となっています。ダム湖は「窓竜湖」と呼ばれ、名前の由来は北にそびえる窓ヶ山を湖面に映し、竜がゆったりと遊ぶ様子を表したとのことです。

魚切ダム建設工事で石を採掘した場所は、現在「下河内運動広場」となりテニスコート・多目的グラウンドとして多くの市民が利用しています。



魚切ダム



下河内運動広場

ダムが完成した当時は水もきれいでしたが、1987年(昭和62年)頃から水質が悪化し、2000年(平成12年)の夏には通常の水道水の臭いに影響をおよぼしました。広島県では水の浄化に取り組み、2002年(平成14年)4月稼働予定の「浄化プール」が建設されています。



浄化プール

河内発電所

まだ各家でランプを使っていた1905年(明治38年)に、許可を得て75,000円の事業費で工事が始まり、1907年(明治40年)4月23日に広島電気株式会社発電所として造られました。出力は200KWで広島市や呉市などに送られ、1916年(大正5年)頃に河内地区にも電気が送られるようになりました。

この発電所は現在も利用され、国内の発電所のうちでも古いものの一つです。



河内発電所に水を送る送水管



河内発電所

白ヶ瀬浄水場

1976年(昭和51年)に八幡川の豊富な水量を生かし、広島県西部地域の佐伯区・廿日市市・大野町などに飲料水を送るために造られました。広島県の管理施設で、1日に67,000t、17万8千人分の上水が送られています。



1人が1日に使う水の量は、0.3t~0.4tです。

白ヶ瀬浄水場

八幡川の今日

八幡川
歴史地図
ガイドブック

河内地区の地名

大字名

1889年(明治22年)の市町村制の施行により、佐伯郡に属す江戸時代以来の四つの村落は、旧郷に隣り互いに合併し河内村となりました。その後大字として現在まで存続しています。

上河内

(ウキゴウチ)

中世の河内郷の内、八幡川右岸一帯を領域としています。上流は魚切地区の山根を境に、下流は支流の荒谷川を境にし、左岸は小深川に接し、中郷を中心としています。

下河内

(シモゴウチ)

上流は支流の日浦畑川を境に白川地区が展開し、下流は支流の荒谷川の右岸と支流の城六川一帯を占めています。河内峠を挟み枝郷の大杉地区も含め、山間支谷に展開しています。

上小深川

(カミコソカワ)

向山南麓の支流の古野川と野登呂川により、形成された河谷地区に展開しています。河谷は狭少で奥行きは深く、急流で八幡川本流に合流し、流域には畑田が連続しています。

下小深川

(シモコソカワ)

野登呂川と本流の合流地点で上下に分れ、左岸背後の門前山に沿う下流域となっています。

上河内地区

魚切

(ウキギリ)

景勝の地・次郎五郎の滝は高く、川魚は上流への遡上を立ち切られ地名となりました。

白ヶ瀬

(シラガセ)

花崗岩の露岩や風化土壌の真砂により、八幡川の河床には白い瀬が形成されました。

中郷

(ナカゴ)

上河内地区のほぼ中心部に位置し、河岸段丘の末端に多少の民家と水田が広がっています。

古川

(フルカワ)

かつて八幡川は河内川と呼ばれました。西部段丘下に旧河道が残り今は古川と呼ばれています。

山根

(ヤマネ)

細長い西部山根の尾根が河谷に迫り、中世には丘陵頂上には山根城が置かれていました。

荒谷

(アラタニ)

河内峠より南東に流れる河川は急流となり、東山麓は荒々しい河谷となっています。



上河内中郷付近